第 2019-47 号

恵みと真理のニュース

2019 年 11 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

イエス様がこの地に再び来られるその日を待ちながら期待して熱心に伝道するようにしてくださり、共におられ伝道の実を与えてくださる神様の恵みに感謝捧げます。

わたしを救いを受けた喜びと伝道の熱情を充満にして下さり、礼拝中心、教会中心の生活をしながら使命感と幸せを持って熱心に福音を伝えるように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。私は最近、総力伝道大会の期間に２５年を全身全力して伝道してきた中で早い時間に伝道の実を結ぶ喜びを味わいました。

“全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。”

聖霊で充満になるように生まれ変わってない魂を憐れむ心が豊かに溢れるように　また、伝道の扉が開かれ伝道の場が広がれるようにしてください。聖霊の権能を与えてくださって知恵ある言葉で伝道して福音を聞く人々が罪の義と審判に対する聖霊の責めるのを聞いて道であり、真理であり命であるイエスキリストの前に進むようにしてください。

このようにスワン聖殿から男性奉仕連合会の伝道訪問部の会員達と共に祈り会を持って二人で一組になりスワン駅と南門市場の周りに市内病院に伝道をしました。まもなくある中年の男が恵みと真理ニュースを持って私に近づいて来て“恵と真理教会にどう行けばいいですか。と聞きました。福音のニュースはどこで持って来たのかと聞いたら少し前にこの近くで伝道している人からもらったと言われました。その話を聞いた瞬間、感激して私の胸はドキドキして手と足が震えてしまいました。その方はその日、我が教会の礼拝に参席して決信して教籍に登録しました。続いてアジュ大学病院伝道でも患者と家族を慰めて熱心に恵みの福音、治療の福音、天国の福音を伝えて多くの方がイエス様を信じると決信しました。

長い間病院で訪問に行って伝道する中で植物人間になった夫を介護する妻を熱心に伝道しました。夫の病気が重いので教会の礼拝に参席できなくて、恵と真理教会に載せられている家庭礼拝で神様を礼拝して夫の治療と魂の救いのため祈りました。その時から、婦人は夫が神様の恵みで健康が回復され家で家庭礼拝を捧げるその日を想像しながら病状で夫を抱いて神様に礼拝を捧げました。この婦人の涙の祈りと愛がむだではなかったです。夫が病状になって５年ぶりに回復され起き上がって食事をするようになり、私に感謝する挨拶もしました。イエスキリストを救い主として受け入れました。私は実に驚くな神様の奇跡を体験して神様に栄光捧げました。

何年前、我が男性奉仕宣教会の会員達が健康と親睦を図るためカンギョ山で銅山に行って帰って来る道でした。私が一行の後ろで降りてくる時、ふと団体銅山大会をする代わりに共に集まって二つの市内に行って人々を伝道したら神様が喜ばれると思いました。それで、計画を立てて会議の時の役人の長老たちと共に話し合ったらみんなが喜んで協力してくださいました。体育大会と銅山大会の代わりに一年の中で３回総力伝道大会を実施するようになりました。今まで伝道大会を通して総６万人に福音を伝えました。聖なる目標を立てるようにしてくださり、聖なる欲を持って奉仕するように導いて下さり、その目標を成し遂げられるように導いてくださった神様に感謝します。

このように熱心に伝道する私に神様は多様な救いの恵みを与えてくださいました。私の左の内ももに瘤が出来て病院に行くと脱腸の診断を受けました。早く手術を受けて再発するかもしれないとしました。しかし、私は区域長のセミナーと男性奉仕連合会のセミナー準備の関係で手術を受けることを後回しして相変わらず教会で奉仕して外に出て伝道しました。その後から遅く治療を受けましたが長い歳月が経った今も一度も再発しなかったです。去年１２月、重い荷物を移すときに急に腰の痛みを感じて立てられなくて両手を上げられなくて病院に行きましたが、骨粗鬆症で脊椎骨が骨折されたという診断を受けました。動いたら脊椎が折れるかもしれないからベットに横になってくださいとしました。海外セミナーに参席中であった院長が帰国する１０日後に手術を受けなさいと言われました。病院に横たわっている間私の意志と関係なく私の足で土を踏んで教会を行き来して奉仕して伝道するのがいくら神様の恵みであるか改めて悟りました。

しかし、病院で１０日後再撮影した写真を見たら驚く事が骨がついて手術しなくても良いと言われました。その代わり当分の間、薬を服用して腰の保護帯を着用して気を付けて生活をしたら良いと言われました。すぐ、退院して主日の朝早く教会に行って一部礼拝の時間に奉仕をして市内に行って伝道しました。神様は私と男性奉仕連合会の会員達の祈りを聞いて治療してくださいました。

神様は私と家族の命を保護してくださいました。ワンドで帰農した親戚がきれいにして干した自然のフグを送ってくださったのでおいしくフグを蒸して家族みんなが食べました。ところが、私と家族の口の周りが麻痺され足の力がなくなり、めまい症状も出ました。みんながフグの毒に中毒されてアジュ大学病院の応急室に行ってから集中治療室で入院しました。周りから心配が多かったです。しかし、良かったのが他の家族は三日ぶりに、私は四日ぶりに無事に退院しました。退院してから私は教会に行って神様に礼拝し伝道しながら奉仕しました。

“わたしの魂よ、主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって／聖なる御名をたたえよ。わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し命を墓から贖い出してくださる。慈しみと憐れみの冠を授け長らえる限り良いものに満ち足らせ／鷲のような若さを新たにしてくださる。（詩編１０３：１～５）アーメン

私の一生を救いの福になら素晴らしい福音を伝える機会を与えてくださって充満な使命と熱情を持って福音を伝えながら伝道の実を結ぶように導いてくださる神様に感謝します。伝道は主が下さる地上命令で神様が享受する特権であり、当然に行うべきの義務であり使命だったので天国に行く日まで福音を伝えるのを辞めません。私たちの救い主である神様！私に伝道に必要な知恵と能力を与えてくださり、私の希望になる主を愛します。ハレルヤ！

［信仰コラム］　お祈りしなさい、そして行動しなさい

”... わたしとわたしの侍女たちも同様に断食しましょう。そしてわたしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら，死にます...” （エステル記4:13～17）

お祈りは神様の哀れみと助けを求める方法でいかに強調しても度が過ぎません。お祈りだけで神様の応答を受ける場合があります。しかしお祈りしながら行動をすべきの場合が多くあります。聖書にはこれを教訓する劇的な事件が多く記録されています。その見本になつ二つの事件を調べてみます。

第一は、アブラハムが見せた見本です。

アブラハムの甥ロットがソドムに、アブラハムがヘブロンに移住して数日が経ってから、’カナンの南北戦争’が起きました。北方の四国が連合してケダラオメル王の指揮の下でソドム、ゴモラを始めた死海沿岸の五つの同盟国の王を攻撃しました。勝利したケダラオメル王の連合軍はソドムとゴモラの全ての財物を奪取してそこに住んでいる人々を捕虜として捕まえました。この中でアブラハムの甥ロットと彼の家族もいました。アブラハムは家で養った 318 人の訓練された壮丁を率いて隣町の人々の協力を得て遠くのダンまで追撃しました。アブラハムは兵力を分けて夜間奇襲を敢行してケダラオメル連合軍を撃破して全ての財物を捜し戻し、捕虜として捕まえられた人々を救出しました。勿論ロットと彼の家族も救出しました。

アブラハムが老体でわずか 318 人の壮丁を率いてメソポタミア 4 ヶ国の連合軍を相対する作戦は無謀な行動に等しいです。なのにも関わらず、アブラハムが救出作戦を敢行したのはロットに対する愛情と共に神様の助けを確信する信仰があったからです。兵士の数や武器の優秀性も重要だが神様を敬う人には神様が自分と共におられるのか否かがより重要です。全能な神様の助けが加わると奇跡的な勝利を得ます。”お祈りしなさい。そして最善を尽くして行動しなさい。神様が助けてくださる。”これはアブラハムが見せてくれた教訓です。

第二は、モルデカイとエステルが見せた見本です。

エステルは幼い時に両親を失いペルシア王室の門番であった従兄弟のモルデカイによって養育されました。エステルが手順を経てペルシアの王侯になって 4 年後、モルデカイとユダヤ民族が滅絶の危機に処されました。アハシュエロス王の信任を受けた大臣ハマンが王の門に出入りする全ての人は膝を屈めてひれ伏すようにしたがモルデカイはハマンにそのようにしませんでした。膝を屈めてひれ伏すのは神様に対する軽輩の態度であるからです。ハマンは不都合な心を抑制できずモルデカイだけではなく彼の民族であるユダヤ人を滅絶しようと心を決めてアハシュエロス王にユダヤ民族を訴えました。ハマンは王の印が押された詔書を諸州に送り、12 月 31 日にユダヤ人老若男女を全滅して財産も全て奪取するよう指示しました。

民族滅絶の危機に処されたことを知ったモルデカイとユダヤ人達は断食しながら大声痛哭しました。モルデカイは王侯のエステルに王の前に進んでユダヤ民族のために訴えるよう求めました。ペルシア帝国では王の御呼びを受けずに進むと地位高下を問わず死刑に処されるようになっています。エステルは重大な決心をした後にモルデカイに”あなたは行ってスサにいるすべてのユダヤ人を集め，わたしのために断食してください。三日のあいだ夜も昼も食い飲みしてはなりません。わたしとわたしの侍女たちも同様に断食しましょう。そしてわたしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら，死にます。”と伝言を送りました。そして三日目に王妃の服を着て王宮の内庭に進みました。結局ハマンはモルデカイを処刑しようと立てた処刑台で殺されました。王はエステルの要求を承諾してユダヤ人が自らを防御するための自救策を講じる詔書を書いて印を押し、全国に公布させました。そうしてユダヤ人を害しようとする者達が却って殺されて財産を奪われました。モルデカイは王の次の地位にいることを見せる服を着て王の前に立ちました。ユダヤ人全てに光栄であり、喜びと尊貴になりました。

神様は私達のお祈りをお聞きなさいます。そして私達が最善を尽くして行動するのを注意深く見られます。たとえ私達の行動が問題の解決に及ばなくてもお祈りして信仰で行うと神様が哀れんでくださり助ける手を伸ばしてくださいます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

最上の最高の祝福

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

祝福という漢字を解ければ「福を祈る」という意味です。しかし、「福」を意味します。「福を受けなさい。"するか"祝福受けてください。」と言うことができます。しかし、神に「祝福してください。」と求めることは適切ではありません。「神は、祝福をお与えください」と言うことです。神は一人でおられ祝福の源だからです。人は被造物であるので、創造主である神から祝福を受けることを慕って求めることが当然です。一方、偶像に祝福を求めることは、神を軽蔑して逆らう罪です。神があなたの人生に与える福は数えできません。その中で最上最高の福で数えられるのがあります。その福が今日の本文に記録されています。3つものです

第一は、主イエス・キリストの恵みです。

「恵み」という言葉には、「優雅や魅力を意味する美的概念」と受けることがが全くない者にただで与えられる「分にあふれる賜物」という概念が内包されています。人が必ず知っておくべき恵みがあります。それは「イエス・キリストの恵み」です。「イエス・キリストの恵み」という言葉に内包されている豊かさは、すべて測ることができません。使徒パウロは、コリント教会の信徒たちに送った手紙の中で**「あなたがたは，　わたしたちの　主　イエス・キリスト　の　恵みを　知っている．　すなわち，　主は　富んでおられたのに，　あなたがたのために　貧しくなられた．　それは，あなたがたが，彼の　貧しさによって　富む　者になるためである」（コリント人への第二の手紙　8：9）**としました。この言葉には、「イエス・キリストの恵み」が簡単明瞭にまとめられています。
イエス・キリストを指して、「元の豊かされた者」としました。イエス様がどのような方であるかについてヨハネ1章には、次のように明らかにしています。**「初めに　言があった．　言は　神と　共にあった．　言は　神であったこの言は　初めに　神と　共にあった．すべてのものは，　これによってできた．　できたもののうち，　一つとしてこれによらないものはなかった．」（ヨハネによる福音書　1：1～3）、「そして　言は　肉体となり，　わたしたちのうちに宿った．　わたしたちはその　榮光を　見た．　それは　父のひとり　子としての　榮光であって，めぐみとまことに　満ちていた」（ヨハネによる福音書　1:14）**
イエスは聖三位一体になる神であり、その中に聖子の神様です。イエスは万有を創造し、所有された万有の主であられ。したがって、所有にとって極めて豊かされた方です。イエスは栄光にも豊かれます。イエスは神の御座の右におられ天軍天使と救われた信徒たちから崇拝と賛美を受ける聖子の神様です。所有と栄光において極めて豊かされたキリストが「貧しいになられた」としました。イエスは処女の体に聖霊によってにごもって人の体を着てこの世にきました。
「キリスト　は，　神のかたちであられたが，神と　等しくあることを　固守すべき　事とは思わず，　かえって，　おのれをむなしうして僕のかたちをとり，　人間の　姿になられた。その　有様は　人と　異ならず，おのれを　低くして，　死に　至るまで，　しかも　十字架の　死に　至るまで　従順であられた」（ピリピ人への手紙　2：6～8）としました。誕生の際にふくろに包まれ飼い葉桶に寝かられました。その自身の家がないでした。十字架につけられ死なれたイエスの遺体は、他人の墓に葬られました。イエスはこのように貧しくなられたのはなぜですか？驚くべきことに、聖書に記録されたのを「私たちを豊かにしようと貧しいくなられた」としました。そして誰でもイエス・キリストを信じて受け入れればすべてが言うまでもなく富を得っていただきます。その豊かの内容は次のとおりです。
①義人になるようにしてくださいます。　②イエス・キリストを受け入れた者は、神の子となるようにしていただきます。　③イエス・キリストを受け入れた人は、天国を企業に与えられます。　④イエス・キリストを受け入れた人は、将来復活して霊的な体、強い体、死なない体、腐らない体、栄光の体の形に変化されるようにしてくださいます。イエス・キリストの恵みは彼を信じて受け入れる人たちに存在と身分と所有と栄光において、このように豊かにします。
②イエス・キリストの恵みと、このように驚くべき不思議で貴重です。この恵みを私たちに与えるために、主が求めておられるのは、ただ信仰だけです。**エペソ人への手紙　2章　8節と　9節には「あなたがたの　救われたのは，　実に，惠みにより，　信仰によるのである．　それは，あなたがた　自身から　出たものではなく，　神の　賜物である．　決して　行いによるのではない．　それは，　だれも　誇ることがないためなのである」**としました。　「イエス・キリストの恵み」を知って、その恵みで生きる祝福は最上の最高の祝福です

第二には、神の愛です。

1.神の愛は、自分の独り子を送って、私たちの罪を贖いした不思議で驚くべき愛です。**「　神はそのひとり　子を　世につかわし，　彼によってわたしたちを　生きるようにして　下さった．それによって，　わたしたちに　対する　神の愛が　明らかにされたのである．　わたしたちが　神を　愛したのではなく，　神がわたしたちを　愛して　下さって，　わたしたちの　罪のためにあがないの　供え　物として，　御子をおつかわしになった．　ここに　愛がある」（ヨハネの第一の手紙　4：9,10）**しました。
2.神の愛は、その何でも切ることができない愛です。　**「　だれが，　キリスト　の　愛からわたしたちを　離れさせるのか．　患難か，　苦悩か，迫害か，　飢えか，　裸か，　危難か，　剣か．わたしは　確信する．　死も　生も，　天使も　支配者も，　現在のものも　將來のものも，　力あるものも，　高いものも　深いものも，　その他どんな　被造物も，　わたしたちの　主　キリスト・イエス　における　神の　愛から，　わたしたちを　引き　離すことはできないのである」（ロ―マ人への手紙　8：35,38,39）**しました。
3.神の愛は、豊かな愛です。
4.神の愛は永遠に変わらない愛です。神の愛を拒否して、神を離れない限り、神から見捨てられる人は一人もいません。
聖徒は、キリストによるの神の愛の広さと長さと高さと深さがどうであるかをわかっているほどに、神のあらゆるの充満したことで充満されます。

第三には、聖霊の交わりです。

聖霊は、神の選ばれた人々に多くの益をくださます。
1.聖霊は、神の選ばれた人が福音を聞いて、イエス様を受け入れるようにしてくださいます。
「　そこで，　あなたがたに　言っておくが，神の　靈によって　語る　者はだれも「イエスはのろわれよ　」とは　言わないし，　また，聖靈によらなければ，　だれも「イエス　は　主である　」と　言うことができない」（　コリント人への第一の手紙　12：3）しました。
2.聖霊様は、私たちが神の子どもとなったことを知て、神様を父と呼ぶようにしてくださいます。　**「このように，　あなたがたは　子であるのだから，　神はわたしたちの　心の　中に，「アバ　，　父よ　」と　呼ぶ　御子の　靈を　送って　下さったのである」（　ガラテヤ人への手紙　4：6）**しました。
3.聖霊様は、私たちが神の言葉を正しく悟って分かるように教えてくださいます。イエスが言われた　**「しかし，　助け　主，　すなわち，　父がわたしの　名によってつかわされる　聖靈は，あなたがたにすべてのことを　教え，　またわたしが　話しておいたことを，　ことごとく　思い　起させるであろう」（ヨハネによる福音書　14:26）**しました。
4.聖霊様は、私たちを導いてくださいます。聖書の御言葉で、私たちの行うべき道を導き、主の御心の中に私たちを導いてぐれます。
5.聖霊様は、私たちを慰めておられます。イエスがこの世を離れるのを弟子たちに言われた。弟子たちは**心配**でいっぱいになりました。このとき、イエスは驚くべきほどの約束をしました。**「わたしは　父にお願いしよう．　そうすれば，父は　別に　助け　主を　送って，　いつまでもあなたがたと　共におらせて　下さるであろう」（ヨハネによる福音書　14:16）**しました。ここで助け主という言葉は「慰め主」という意味があります。
6.聖霊様は、私たちの弱さを助けてくださいます。
①サタンの試験と罪の誘惑に勝つように助けてくださいます。**「なぜなら，　キリスト・イエス　にある　いのちの　御靈の　法則は，　罪と　死との　法則からあなたを　解放したからである」（ロ―マ人への手紙　8：2）**しました。
②私たちの祈りを助けてくださいます。　**「御靈もまた　同じように，　弱いわたしを　助けて下さる．　なぜなら，　わたしたちはどう　祈ったらよいかわからないが，　御靈みずから，言葉にあらわせない　切なるうめきをもって，わたしたちのためにとりなして　下さるからである．　そして，　人の　心を　探り　知るかたは，御靈の　思うところがなんであるかを　知っておられる．　なぜなら，　御靈は，　聖徒のために，　神の　御旨にかなうとりなしをして　下さるからである」（ロ―マ人への手紙　8：26,27）**しました。
7.聖霊様は、私たちに福音を伝えるように権能を与えて賜物をくださいます。
①イエスが言われた　**「ただ，　聖靈があなたがたにくだる　時，　あなたがたは　力を　受けて，エルサレム　，　ユダヤ　と　サマリヤ　の　全土，さらに　地のはてまで，　わたしの　證人となるであろう　」（使徒行傳　1：8）**しました。
②各種の賜物を与えてくださいます。知恵の言葉、知識のことば、霊分別、信仰、癒し、力行い、方言、方言通訳、預言の賜物です。
8.聖霊様は、私たちの性格を変化させて頂きます。　**「しかし，　御靈の　実は，　愛，　喜び，平和，　寛容，　慈愛，　善意，　忠實，　柔和，自制であって，　これらを　否定する　律法はない」（ガラテヤ人への手紙　5：22,23）**しました

「主イエス・キリストの恵みと　神の愛、聖霊の交わりがあなたの群れと一緒にあるように。」このような祝福を超える祝福がありません。皆さんは**「主　イエス・キリスト　の　恵みと，神の　愛と，　聖靈の　交わりとが，　あなたがた　一同と　共にあるように　」**という最上の最高の祝福を享受してをください。